

会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2015年 5月号



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpin Federation

2015年 5月1日発行 通巻265(毎月1回発行)

クリーンハイクに参加して

鬼汨山の現状を確認しよう！

5月号目次

・ 目次	2
・ 会・クラブ紹介「松戸山の会」	3
・ 初級登山講習案内	教遭委員会 4
・ ワンコイン講習会のお知らせ	女性委員会 5
・ ウィークディ山行のお知らせ	ハイキング委員会 6
・ 特別寄稿「吉尾 弘さん慰霊山行を願って」	う沢 喜久雄 7
・ クリーンハイク案内	自然保護委員会 10
・ マチガ沢報告	教遭委員会 11
・ 新規加入会紹介	12
・ ゆうたよりNO12	長池 康雄 13
・ 県連便り	15
・ 4月・5月予定表	16

表紙紹介

松戸山の会は、創立1982年（昭和57年）に14名で発足した。会の紹介にもあるが、当初は東京都連盟に所属し、その後に千葉県連盟に移籍したとの事。特筆すべきは、会員数が130名に達した事もある。その後、分会し現在も、松戸地区に4会が活動をしている。

その歴史には、文字通り老舗の会として、一本筋の通った会活動を実施し、松戸地区のみならず、千葉県連盟の牽引会として存在を示している。



2015年4月5日クリーンハイク花嫁街道

松戸山の会 紹介

会長 桑原年一

会の創立は1982年（昭和57年）11月14日「安く楽しく安全に」のスローガンのもとに「松戸山の会」として14名で発足しました。

当初は日本勤労者山岳連盟：東京都東部連盟所属でしたが1986年1月1日付で千葉県勤労者山岳連盟に移籍現在に至っています。

少人数でも事務局を設けて会報「山茶花」を2か月後には発行しました。現在の事を思うとよくぞやってのけたと思います。会員拡大には当初苦労しましたが、松戸市の社会教育団体に認定された事で、市の広報を利用して公募及び公開バスハイキングに取り組み徐々に会員も増えて、10周年には50名になりました。以後増減を繰り返して現在に至っています。

1時期は130名に達した事もありましたが、分会して（松戸に4会）71名まで落ち込みました。

平均年齢も高齢になりどうなる事かと思案しましたが、ホームページの充実により徐々にその効果が出て80、90名となり現在95名になりました。又、平均年齢もぐんと若くなりました。今後大変ですが100名規模になる様に努力したいと思っています。

<会の活動の紹介>

会運営

事務局長を中心に原則月一回運営委員会で決定します。例会は第2水曜日を全体例会（全員）運営の報告・山行計画・30分をめぐりに勉強会（テーマを決めて）を行います。第4水曜日は班例会（各班）を行い、報告、山行打ち合わせ等します。

会報部

月刊「山茶花」は充実した紙面で発行（387号）活躍しています。

山行部

何と言っても数名ですが充実しています。

年間山行計画は元より年間行事（夏山合宿・冬山合宿）新人教育・の計画実行。

登山学校開校

基礎教室：岩、沢教室：テント教室：地図読み教室：雪山教室を校長の基・各リーダー・講師を分担して年間計画に基づいて行っています。

その他、事故防止講習会・消防署に依頼救急法・特に最近では「事故発生から救助までのシミュレーション」各ポジションを決めて行いました。

その他 各役割分担も数名で担当して活躍しています。

今後も無事故で楽しい山行を目標に邁進します。

以上

2015 初級登山講習の案内

県連教育遭難対策委員会

近年の県連発生事故では、高齢者の転倒が増加している現状を踏まえ、また各会で初心・初級登山者が増加している事を勘案して、事故防止を図るべく、昨年に引き続き、実技講習を、主に初心・初級者を対象として行います。

各会よりの積極的な参加を望みます。

記

- 1) 日程：6 / 6 (土) - 6 / 7 (日)
- 2) 山城：富士山麓・朝霧高原 / 毛無山近辺
- 3) 集合：朝霧高原 / 毛無山有料駐車場 8 : 30 集合 9 : 00 開始
- 4) 実技：6 / 6 (土) 9 : 00 - 6 / 7 (日) 12 : 00
 - ① 読図
 - ② ロープワーク基礎 (岩場の通過)
 - ③ セルフレスキュー (搬送法)
 - ④ ファーストエイド (救急法)
 - ⑤ ツェルトビバーク
 - ⑥ 筋トレ実技 <外部講師 荒井トレーナー>
- 5) 宿泊：本栖湖キャンプ場 大型ロッジ<26 畳 予定>
所在地：添付参照。 http://www.motosuko-camp.com/2_info.htm
- 6) 交通：各会毎 車等で
- 7) 実施規模：40 名程度
- 8) 個人装備：雨具 ストック 行動食 シュラフ ヘッドランプ 県連7点セット
<スリング長1 短2 補助ロープ10m カラビナ2 環付カラビナ1>
シルバコンパス 入浴セット テーピングテープ 三角巾
- 9) 共同装備：各会毎 ツェルト 補助ロープ<8*30m>
- 10) 参加費：2,500 円 / 人 <予定>
- 11) 食事(夕食・朝食)：各会毎に。
- 12) 申し込み先 / 期日：各会理事より 5 / 24 までに 遭対委員会 大越へ
<ogoshi-1947@koalanet.ne.jp 047-345-3622> 申込書は別途配布。
- 13) 各会責任者打ち合わせ：5 / 29 (金) 19:30 ~ 県連事務所にて
- 14) 雨天決行：ロッジ内での机上講習を主体に行う。
- 15) その他問合せ先：遭対委員会 岡田 ken-ichi@f4.dion.ne.jp 043-271-4704

第9回ワンコイン講習会

主催 千葉県連盟女性委員会

毎度おなじみの

体に優しい トレーニング

楽しく学ぶ 正しく学ぶ

実施日 2015年 6月21日(日) 13時~16時

場 所 船橋市西部公民館・体育レクリエーション室(2F)
(JR総武線下総中山駅下車)

参加費 ワンコイン(500円)

講 師 荒井 美穂 先生

問い合わせ先:千葉県勤労者山岳連盟 ホームページ事務局への問い合わせまで

講師紹介

- ・最新のトレーニング法で、初心者からアスリートまで、幅広く指導しています。
- ・障害者・高齢者 機能回復トレーニング講師。
- ・企業の健康管理アドバイザー。
- ・個々の悩み、希望に親切、ていねいに応えてくれます。
- ・第8回ワンコイン講習会・事故防止交流集会 などでお馴染みです。

ワンコイン講習会とは

女性委員会では、いつまでも山に行ける体力を維持するために「楽しく学ぶ・正しく学ぶ」をテーマに実技講習を行なっています。大勢の参加をお待ちしています。特に男性の参加を歓迎します。

第19回 県連ウイークデー山行募集 主催 ハイキング委員会

山行日 2015年07月23日(木) 日帰り バス利用 雨天決行

行き先 谷川：ゼニイレ沢～一ノ倉沢

テーマ 50周年記念行事の一環として・吉尾弘さんの(レリーフ)慰霊。

集合場所と時刻 A車 JR千葉駅NTT前6時15分集合出発
B車 鎌ヶ谷市役所6:00集合出発=新松戸(流経大前)
6:30分集合出発

行程 中型バス(27人) 2台(関越道：高坂SA合流)

23日 千葉発6:15=松戸発6:30=関越道=(高坂SA)=水上IC=土合白毛門駐車場10:00着
(準備：体操していざ出発)

10:30 出発—1h—湯檜曾川・一ノ倉沢出会 11:30 ゼニイレ沢(レリーフ参拝往復) 12:30—20—
一ノ倉沢 12:50 散策(ヒョングリ滝・衝立岩・滝沢リッジ等見学) 13:30—1h—駐車場 14:30 着

15:00 乗車 帰路 各地 19:00 着予定

歩行 約4時間00分 休憩含む (但し渡渉箇所ありますので遅延あり)

注：雨天でも散策出来ますので決行します。雨具の用意は忘れなくお願いします。

当日は濡れてもよい服装で(又は着替え持参)来てください。

●道路状況によりスケジュールや時刻等は変更となる場合があります。

※故吉尾弘 略歴 1937年(昭和12年)4月～2000年(平成12年)3月13日 日本の登山家

日本勤労者山岳連盟顧問・千葉県勤労者山岳連盟創設 指導者

1957年(昭和32年)、3月29日に谷川岳一ノ倉沢滝沢リッジ積雪期登攀成功・そのた各地岩壁・
海外の山登頂・2000年3月13日滝沢リッジ登攀中滑落死。

1/25,000 水上：茂倉岳

募集人員 50名 (千葉発25名・鎌ヶ谷発25名)

費用 7,000円～7,500円 バス料金値上げの為未定、

持ち物 山行に必要な装備：コンパス(雨具必須)

申込み〆きり 7月10日(火) と定員になり次第

尚、バス予約の為早めに申込みお願いします。

申込先 各会で纏めて桑原までお願いします。

県連創立 50 周年事業の一つ吉尾弘さんの慰霊山行を願って。

ふわくハイキングサークル う沢 喜久雄

「う沢君はう沢君らしい登り方をすればいい。私は私らしく登る。それを認め合うのが勤労者山岳会＝労山だと思うよ。」 私の所属する大原山の会（ふわくハイキングサークルの前身）の招きに応じて、外房の大原に来てくれた吉尾弘さん（当時は日本勤労者山岳連盟副会長）と、海岸にあった町営海の家で交流した時の吉尾弘さんの言葉です。

私は「宝」を飲み、吉尾さんは「ワイン」を飲みながら、「27 才でこの町の共産党町会議員になって、連泊の山行が無理になった。それに、此の山の会が“共産党の会”だと言われてサークル活動に支障が出ている。」との私の悩みに応えてのアドバイスだったのです。

このアドバイスが、その後の私の“今”を方向付けた言葉となりました。

1960 年 5 月に東京で勤労者山岳会が結成されました。その年の 9 月に日本勤労者山岳連盟と改称されて、日本の新しい登山運動が始まりました。全国連盟の第 3 回総会で吉尾弘さんは全国の副委員長に選出されました。

当時の登山界は“岩登り”の開花期で、日本にある岸壁の“初登競い”が注視されていました。日本の R C C II の創立にも参画した吉尾さんは、雪の谷川岳一の倉沢滝沢本谷の初登を記録し、南ア北岳バットレス中央稜や北ア穂高岳屏風岩中央カンテの雪積期初登と輝かしい記録をあげています。

当時の労山は“地元の山のハイキングからヒマラヤまで”をスローガンにして、登山の大衆化をうたっていました。こんな労山に著名な吉尾弘さんの役員就任は、力強い助っ人となりました。

千葉県連盟結成の引き金に登山界のスーパースターの様な有名人吉尾弘の居る労山と云う事も、労山づくりの動きが各地に湧き上がりました。千葉県内では旭山の会、大原山の会、東金、館山、千葉市、市川市、などで結成の動きがありました。東京からの強力な吉尾弘さんのオルグ（支援）もあって、県連盟結成の準備が始まりました。吉尾さん自身も船橋市夏見町に移って来ました。

1965 年（昭和 40 年）に県連盟は発足を見ました。この年に吉尾さんは全日本合同隊々長としてヨーロッパ・アルプスへ遠征し、ヴェッターホルン北壁を完登しました。1972 年には日本勤労者山岳連盟（労山）隊々長としてインドヒマラヤに偵察山行をして、後の労山ヒマラヤ隊の基礎を作りました。その間に「垂直に挑む男」（山溪出版）を出版し、後進に記録を残しました。

吉尾弘さんは当初、東京の下町にあった朝霧山岳会に入って山登りの初歩をおぼえました。墨田工業高校の定時制を卒業し、岩登りをめざすアッセントクラブに入り、クライミングにみがきをかけました。その一方で、登山の良さをみんなのものに、クライミングのスカッとした充実感をもっとみんなのものにとの志でハイキングクラブ（東京勤労者山岳連盟所属）を創立させ“楽しく安全に”登山する権利を追求する組織＝労山を強化して行きました。

この様な運動の中で“限りなく自然を愛し、人間を愛し、人生を愛する仲間たちの会＝労山を大きくする事。安全確保のためにあらゆる努力を傾注する事こそアルピニストの至上命題だ”その為に生きるまで訴えるまでになりました。此の持論と実践があったために“赤いクライマー”と呼ぶ人もいました。そんな山仲間の中傷を気にせずに自分流の登山を進めて来ました。各県連の登山学校や講習会に飛び回りました。

地元千葉県連の冬山教室（富士山）や雪山教室（谷川岳）もリードして来ました。私も受講生

の一人として参加し、彼が編み出したストップングの技も教わりました。

彼の温かみのある語り口と行動後の記録付けの大事さも教わり、私の幾つかの出版活動にも吉尾さんの教えが生きています。

2000年3月の谷川岳滝沢での事故は“若い者への教訓”でもあったと思いますが“古巣”でもあったので“まさか”の念でいっぱいです。

今年のこのレリーフ前の行事はぜひ成功させたいと考えます。それにはすべての会の参加と、県連の登山学校の一人、吉尾佳子さん(吉尾さんの娘)の現役復帰を願わずにはいられません。

以上

吉尾弘会長の略歴と主な山行

船橋勤労者山の会 桜庭 実 県連理事 提供

1938年4月 東京都墨田区に生まれる。

1943年 国民学校1年生のとき千葉県船橋市に移転。

1953年4月 都立墨田工業高校定時制に進学。翌年、同行山岳部に入部。

1955年4月 東京朝霧山岳会に入会。

1956年9月 原田揮一氏と一ノ倉沢滝沢下部を登る。

1957年3月 一ノ倉沢滝沢本谷積雪期初登攀。

1958年1月 北岳バットレス中央稜積雪期初登攀。第2次RCCが創立され同人になる。

3月 剣岳チンネ中央チムニー、Cクラック積雪期初登攀。

7月 前穂高岳屏風岩中央カンテ岩溝ルートを開拓。

12月 同ルートを積雪期に登る。

1959年2月 剣岳池ノ谷右俣奥壁ドーム稜積雪期初登攀。

3月 東京朝霧山岳会退会。

9月 アッセントクラブ創立に参画。

1960年1月 奥又白4峰正面壁北条・新村ルートを登攀後、屏風岩中央カンテを下降する。

1961年4月 治江さんと結婚。

1962年1月 前穂高岳屏風岩東壁～前穂高岳東壁右岩稜～同Dフェースを積雪期連続登攀する。

1963年3月 鹿島槍ヶ岳北壁中央ルンゼ積雪期初登攀。

12月 山と溪谷社から「垂直に挑む男」刊行。

1964年 東京勤労者山岳会に入会しリーダー部長を務める。東京ハイキングクラブを創設。

1965年8月 ヨーロッパ・アルプス遠征。ヴェッターホルン北壁、ドリユ北壁を登る。

1966年3月 日本勤労者山岳連盟副会長就任。

1969年1月 前穂高岳屏風岩中央壁JECCルート積雪期初登攀。

3月 日本勤労者山岳連盟理事長(以下全国連盟)に就任。

1972年3月 同会長に就任。

1973年 第2次RCCエベレスト遠征への参加を断念する。

1978年10月 隊長として全国連盟隊を率いネパール・パビール峰初登頂。

1981年 全国連盟隊副隊長としてチョー・オユーに遠征。

1983年9月 長谷川恒雄隊副隊長としてダウラギリ1峰北東稜に遠征。

1987年8月 グランドジョラス北壁ウォーカー稜登攀に成功。

1993年7月 ヨーロッパ・アルプスでドリユのボナッティ・ピラー等を登攀する。

1996年2月 再び全国連盟会長に就任。2000年2月の24回総会でも引き続き会長に選任された。

2000年3月13日、谷川一ノ倉沢滝沢リッジを登攀中に滑落事故死。

エピソード

・元々は普通の勤め人であったが、会社が終わってからトレーニングをするのではどうしても時間が足りないため、会社を辞めて日雇いの肉体労働をするようになったと言う。

・金銭や名誉に興味がなく、企業から高価なものを送られても人に与えてしまい、自身は百円ショップで一日中買い物をしていたと言う。

一ノ倉沢滝沢リッジ遭難事故と救助活動の概要

吉尾弘全国連盟会長は、3月11日に3人パーティー（吉尾弘<62>、大江徳厚<49>、中台寿<47>）で滝沢リッジに取り付き、12日にAルンゼを登って下山の予定でしたが、13日18時過ぎドーム基部から滝沢スラブへ約20m滑落しました。吉尾会長は、このところ毎年この時期に滝沢リッジを登っていました。

取り付きのスラブは雪のつきが悪く、滝沢リッジの雪も悪く不安定で「騙しだまし」登る事を強いられました。そのルートをと、吉尾会長はすべてのピッチを2本のロープを引いてリードしました。ルート上の通称オムスピ岩でビバークしたのは12日でした。翌13日、パーティーは18時頃に滝沢リッジからドーム基部に達し、さらに夜を徹してAルンゼを登るために、吉尾会長はAルンゼへの下降点にむかって基部をトラバースしていきました。回り込むように姿が見えなくなしてから、{あっー}という声と共にテンションがかかったということです。

その日の夜、携帯電話による通報で事故の知らせを受けた東京と千葉の会員は、翌14日朝から山岳ガイドの堤信夫氏、群馬県警谷川岳警備隊、群馬県防災航空隊の協力を得て救助活動を開始しました。県警警備隊4人ともにヘリで肩の小屋に上がった会員7人は、堤ガイドを先頭に主稜線からドームの頭をめざしてルートを延しましたが、16時に数ピッチを残して肩の小屋に戻りました。

翌16日も風雪の中、県警警備隊4人と小屋に泊まった8人が残りのルートを延ばし、10時半過ぎに堤ガイド、阿部明千葉県連盟救助隊長ら7人がドームの頭から懸垂下降で事故者2人の所に達しました。事故者はサポートされながらドームの頭にユマーリングで上がり、ようやく回復してきた天候のなか、12時半頃に大江を、引き続き中台を東邦航空ヘリコプターでピックアップして救出しました。

その頃、天神尾根経由で登って来た東京、千葉、神奈川の会員ら第2陣のメンバー11人がドームの頭へのルート入口に到着。第1陣と入れ替わるようにドーム基部へ下降して、吉尾会長の遺体をドームの岸壁から離すように移動させて、同じく東邦航空のヘリコプターで搬出する事が出来ました。さらに、同人マーマットの小野毅氏ら9人が到着して第2陣と入れ替わる様にルートに入り、フィックスロープなどの回収にあたっていました。救助隊メンバーがすべて下山したのは22時になっていました。

吉尾会長は検死の結果、頸髄を損傷、救助された2人もそれぞれ手指、足指に軽い凍傷を負いました。

以上



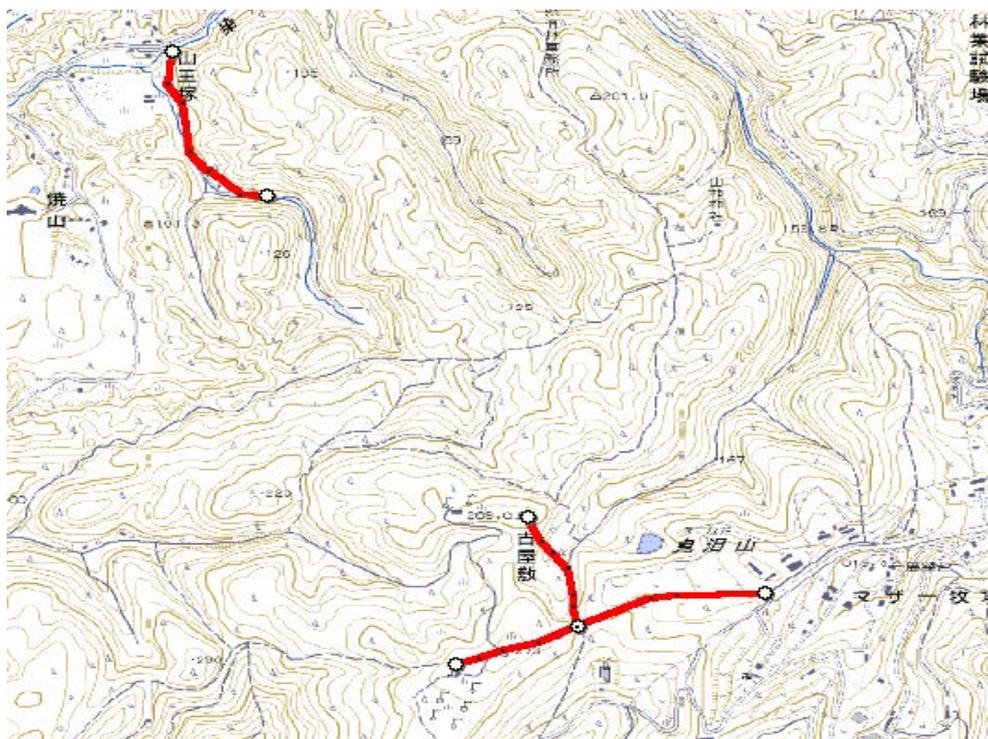
写真提供 桑原 年一氏 (松戸山の会)

5/31(日) 県連統一クリーンハイク計画

千葉県連盟などの反対運動の成果で、凍結答申により山砂採取計画は一時中止になりました。しかし、完全に中止された訳ではありません。乱開発から、ふるさとの豊かな山を守るためにも、50周年事業の1つとして、今までの県連自然保護運動を振り返り、再度現在の鬼泪山の現状を見ながらクリーンハイクをしましょう。

- ・ **場所** 鬼泪山 2コースに分散 地図の太線の部分
- ・ **コース1** マザー牧場隣無線等入口～鬼泪山への林道
- ・ **コース2** 関山用水取水口まで
- ・ **集合場所 時間** 小雨 決行
- ・ **JR利用の場合** 7:45 千葉駅発 内房線(館山行) 佐貫町駅 8:53 着
- ・ **車の場合** 佐貫町駅に行く方 9:00 佐貫町駅 電車の者と仏母寺へ
直接仏母寺へ行く方 9:30 までに
- ・ **仏母寺集合 9:30** 挨拶 コース案内
- ・ **服装** 通常の山歩きの服装 軍手 弁当持参

クリーンハイク実施 10:00～12:00



ゴミ収集用の袋などは 自然保護委員会で用意します

各会の自然保護委員は5月14日(木)までに参加者をまとめて下さい

小雨天決行ですが、荒天で中止の場合前日の午前中に各会の委員に連絡します。

13:00～14:30 報告会

問い合わせは 千葉県連盟ホームページ

自然保護委員会への問い合わせまで、お願いします。

マチガ沢雪上技術講習の報告

教育遭難対策委員会

去る4月4日、谷川岳／マチガ沢出合にて雪上技術講習を行いました。昨年が続いての実施となりましたが、本年は救助隊に全面協力を願い、実りある実技講習となりました。参加は9会（下記）計54名となり、4班に分けての講習となりました。加えて、講師陣には往年の諸先輩にも参加を頂き、諸技術の教育と継承の機会にもなったと推察します。昼前よりは降雨模様となり、13時に無事終了しました。尚、救助隊には複数回の現地下見を含めて少なからざる労力と費用を費やして貰っており、来年度以降は受講費の有償化等が検討課題となりました。

- 1) 主催：教育遭難対策委員会 実施協力：県連救助隊
- 2) 参加：ちば山の会 山の会岳樺クラブ 千葉こまくさハイキングクラブ
松戸山の会 松戸山翠会 船橋勤労者山の会 まつど遠足クラブ
東葛山の会 茂原道標山の会 計9会54名
- 3) 内容：キックステップ（坪足 アイゼン）滑落停止 雪面での確保技術（アックスビレイ） ロープワーク等



千葉アルパインクラブ創立にあたり

会長 徳永和也

鎌ヶ谷に「祭」と言うお好み焼き屋がある。やりたい沢やアルパインルートを中心に縦走登山など、その年の、また将来の山行計画を、祭で焼酎のホッピー割りを片手に熱く語り合ってきました。2017年のライトエクスペディション計画も具体化してきたころ、いよいよ自分たちで組織を作り自分たちの山行をやっていききたいとの思いが強くなり、吉田(重)さん、神山さん、渡辺(理)さんと私を核とし、喜友名さん、そして県外ですが大事な山仲間の鈴木(和)さん、林さんの7名にて2015年4月1日付け、千葉アルパインクラブを立ち上げました。

私たち千葉アルパインクラブは次のような基本理念をもって千葉県勤労者山岳連盟加盟団体として、一步ずつ高みを目指し活動します。

☆愛すること！☆

山を愛し自然を愛し、人を愛し、心身共に豊かな生活に繋がりたい。

☆平和・安全に！☆

登山は絶対安全とする。その為には真摯に山と向き合い、仲間を尊敬・信頼しチーム力を最大限に出して安全に登攀・下山し必ず生きて帰り日常生活に戻ることに。

☆笑顔で！☆

経験を積み、技術を高め、そしていつも笑顔で気持ちのいい山行を心がけたい。

So! Love and Peace and Smile!

And I aim to step-by-step high mountain!

立ち上げ際し、千葉県連広木会長、吉田理事長をはじめ、私の恩師である山の会「岳樺クラブ」の荒井会長、「東葛山の会」の安彦会長、「ちば山の会」の平野会長と沢山の山仲間からご教示やご指導を頂きましたこと、ここに御礼を申し上げるとともに、今後ともご指導ご鞭撻を下さいますよう、よろしくお願い致します。

ゆう便り NO.12

NPO法人ちば労山ゆう」の正会員・賛助会員のみなさん。

“桜花爛漫”。石巻の日和山公園の南斜面に折れ降る山道に沿って、桜の古木がまさに今を盛りに桃白色の波を打っています。

近郊の方々でしょうか、桜の下で、多くのみなさんがブルーシートを広げ宴を楽しんでいました。高校生らしい大きなグループが輪になりその内のひとりが立ち上がって、自己紹介をしているのでしょうか？

恥ずかしそうな笑顔が微笑ましい光景でした。

では、早速・・・

- 1、日時 2015.4.18（土）～19（日）
晴れ
- 2、参加 9名
- 3、活動場所 石巻牡鹿半島谷川浜
- 4、宿泊場所 小淵浜民宿「あたご荘」
- 5、活動内容
 - ・ホヤの牡蠣殻の吊紐通し作業
 - ・草花の植込み作業



スズランの植え付け作業（洞福寺）

いつもの通り万石浦湾口に掛る橋を渡り牡鹿半島に入っていくのですが、曲折する半島西岸道路は修復整備が進みガタつく部分はもうありません。



成育した海鞘

取れたてのほやほや
美味そう！！

今回は、小人数なので大鍋を使った炊事は不都合だということで、初めて民宿に泊ることにしました。（3軒のうち2軒はバスツアーで利用していますので、残りの1軒に“草鞋”を脱ぎました）

高みにあるその窓から小淵浜漁港を俯瞰してみますと、岸壁の修復工事は一部を残して終わっており、白い真新しい岸壁に波が寄せていますし、荷役用の舗装道路も整備完了しつつあります。

居住環境整備の著しい遅れに比べて、事業施設の整備が先行していることは、ここ牡鹿半島に限らず女川あたりの港湾設備を見ても良く分かりますし必然の段取りかも知れません。しかし、それにしても高台移転の宅地造成の遅れは著しいものです。

谷川浜洞福寺の横を通って山に登っていくと谷川浜の移転居住地になる山地がありますが、まだ樹木伐採を行った裸地が見える程度でアプローチ用道路建設もまったく進んでいないのです。

従って住民のみなさんの復帰も進まず労働力の不足が著しいと聞きます。養殖漁業が主要な産業であるこの地域は、現在、ボランティアの支援力が大きな支えになっているという現状があります。



手慣れた作業風景



各地からの、様々なボランティアが支援活動を継続しているようですが我々、「ゆう」の支援力も地元の大きな支えになっていることを、肌感を感じることがあります。

今回の牡蠣殻吊りの作成作業は、800本、過去最高であったとはA家ご主人のことばでした。

熟練が進んでいたのですね。

ところで話題は変わりますが、洞福寺に本堂脇斜面に植え込んだ水仙の

株が鹿の食害にあったことは前回報告しましたが、部分的に残っているものもあるし、小湊浜では別の植物が食害に合い、水仙はみごとに咲き残っていました。

どうやら鹿たちの食物環境が潤沢なときは水仙には目が向かず、困った状況にあるとき、その口先を寄せてくるといったような感触があります。

どうやら鹿たちの食物環境が潤沢なときは水仙には目が向かず、困った状況にあるとき、その口先を寄せてくるといったような感触があります。

今回は、住職と相談して水仙の列の下にすずらんの苗を植えこみました。

まさか、すずらんまで食べはしないだろうと思いますが！

では、また。

メール担当：長池康雄

【今後の支援活動予定】

6月	6/20~21	福島南相馬
7月	7/11~12	牡鹿半島谷川浜
9月	9/12~13	福島南相馬
10月	10/3~4	牡鹿半島谷川浜
11月	11/28~29	福島南相馬

ゆう 第3期通常総会 報告

第3期通常総会を、下記のとおり実施しました。

- 1、実施日 2015年4月21日 19時より
- 2、会場 船橋市・西部公民館
- 3、参加者 正会員 18名
- 4、活動報告
 - ・ 会員数 正会員 96名 賛助会員 114名
(2015年3月31日現在)
 - ・ 現地災害支援 10回 参加延べ人数 159名
 - ・ 年会費 正会員 1,000円 賛助会員 500円

県連たより

千葉県勤労者山岳連盟（千葉労山）

- ◎ 県連盟事務所
〒262-0033
千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
レジデンス幕張台 101 号室
TEL・FAX： 043-306-1190
Eメール：rousanchiba@grape.plala.or.jp
JR総武線幕張本郷下車、海側 徒歩5分
(県連事務所に常駐者はいません)

- ◎ 千葉県連ホームページ
<http://www.cwaf.jp>
県連盟への問い合わせは、上記ホームページ
事務局への問い合わせまでお願いします。
- ◎ 加盟会会員の事故一報送付先
教遭委員長・岡田 賢一
ken-ichi@f4.dion.ne.jp
Fax：043-271-4704
事故一報は、全国連盟事務局にも必ず
送付の事。
- ◎ 「ちばニュース」原稿送付先
機関紙委員会・広木 国昭
danphiro@zpost.plala.or.jp
- ◎ 連盟費振込み先
郵便振替口座 00160-3-481509
千葉県勤労者山岳連盟
- ◎ 東日本大震災・支援金振込み先
口座番号：ゆうちょ銀行
00240-8-98419
加入者名：NPO法人 ちば労山ゆう
代表者 吉田 哲治
- ◎ その他、県連盟、全国連盟への、
ご意見・問い合わせなどは・広木まで

NPO法人「ちば労山ゆう」

- 「ちば労山ゆう」とは、東日本大震災を支援するために、千葉県勤労者山岳連盟を母体として活動を始めた、被災者支援NPO法人です。
- ◎ 「ちば労山ゆう」への入会は千葉県連盟ホームページから常時入会出来ます。
 - ・入会申し込みは
<http://www.cwaf.jp/contact/10-2/>
 - ・「ちば労山ゆう」への問合せは
<http://www.cwaf.jp/contact/09-3/>

 - ◎ 支援活動について
 - ・5月の支援活動はお休みです。
 - ・6月20日・21日（福島）
 - ◎ 支援物資販売活動について
皆様のご協力により、交通費の補助に役立っています。
引き続きご協力をお願いします。
三陸・気仙沼直送の支援物資は「おさしみわかめ」「さしみこんぶ」「くきわかめ」「すき昆布」「とろろこんぶ」
牡鹿半島の「塩蔵わかめ」
常時在庫あります。
**支援物資に関する問い合わせは
下記アドレスに連絡を！**
宅配も、相談下さい。
広木 国昭
danphiro@zpost.plala.or.jp

県連活動予定表

5月	行事予定	6月	行事予定
1 金		1 月	
2 土		2 火	県連役員会
3 日		3 水	
4 月		4 木	
5 火		5 金	
6 水		6 土	初級登山講習
7 木		7 日	〃
8 金		8 月	
9 土		9 火	
10 日		10 水	
11 月		11 木	50周年実行委員会
12 火	県連役員会	12 金	
13 水	バリ島記念山行下見出発	13 土	
14 木		14 日	
15 金		15 月	
16 土		16 火	
17 日		17 水	
18 月		18 木	県連理事会
19 火	バリ島記念山行下見帰国	19 金	
20 水		20 土	NPO支援活動
21 木	県連理事会	21 日	〃 ワンコイン講習会
22 金		22 月	
23 土		23 火	
24 日		24 水	
25 月		25 木	組織委員会
26 火	ハイク委員会・NPO役員会	26 金	
27 水		27 土	
28 木	50周年実行委員会	28 日	
29 金		29 月	
30 土		30 火	
31 日	クリーンハイク		

発行者：千葉県勤労者山岳連盟

〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18

レジデンス幕張台 101号室

TEL・FAX 043-306-1190 (事務所に常駐者はいません)

発行責任者：吉田 哲治

編集責任者：広木 国昭

問い合わせ先：千葉県勤労者山岳連盟ホームページ 事務局への問い合わせ